We support the ilc

希望のひかり

第76回

国際リニアコライダー（ILC）計画の各種最新情報をお届けします

日本時間の2月21日、国際将来加速器委員会（ICFA）が米カリフォルニア州のSLAC国立加速器研究所でILCに関する国際会議を開催しました。会議で文部科学省は、昨年3月以来となる政府見解を表明しました。

その内容は、日本学術会議での議論や、ヨーロッパ各国（ドイツ・フランス・イギリス）やアメリカとの意見交換が進められている状況などです。文部科学省は引き続き米欧との意見交換を実施するとしており、今後の議論の進展が期待されます。

文部科学省の説明の概要

文部科学省は、昨年3月に示したILC計画に関する見解に沿って次のとおり対応している。

(1)国内の検討状況

・日本学術会議のマスタープラン2020において、ILC計画は重点大型研究計画のヒアリング対象計画になったため、ロードマップの審査の対象となる。

(2)欧州の検討状況

・次期欧州素粒子物理戦略に向けて、さまざまな電子・陽電子衝突型加速器の選択肢について議論が行われていると承知している。

(3)国際的な意見交換

・米国からは、日本がILC計画をホストする場合には支持することなどのコメントがあったが、現時点で具体的な貢献の表明はなく、米国内でのさらなる検討が必要であると承知している。

・欧州については、2月に独仏英との4者での意見交換を初めて実施した。独仏英からは、現時点でILC計画に参加する資金的な余力はないとのコメントがあった。

(4)まとめ

・巨額の経費を要するILC計画は、技術的成立性や国際的な分担を含むさまざまな課題が解決され、国内外の幅広い協力を得られることが必要である。文部科学省は引き続き、昨年3月に示した見解に沿って、素粒子物理学における一定の学術的意義などにも鑑み、関心を持って米欧との意見交換を実施する。

ILC推進モデル校の成果交流会

2月19日、ILC推進モデル校による「未来のILCを担う人材育成事業成果交流会」が県庁で開催されました。ILC推進モデル校は、幅広い分野で活躍できる人材の育成などを目的としたものです。現在、8県立高校が県から指定されています。成果交流会には、水沢高校や水沢工業高校などから約70人が参加し、生徒たちがILCへの取り組みの成果を発表しました。

★水沢工業高校の発表

このうち、水沢工業高校は「ILCを知る・伝える・支える」をテーマに、誘致がもたらす影響や変化の可能性を考え、情報を発信し、誘致活動の活性化に取り組みました。

具体的には、1年生が盛岡市の岩手ILC連携室オープンラボを見学し、ILCについて理解を深めました。2年生は茨城県つくば市を訪問し、高エネルギー加速器研究機構（KEK）を見学したほか、つくば市の街並みを分析して、未来の奥州市の可能性を探りました。

こうした活動の成果は、たくさんの人が訪れる文化祭で紹介されました。1年生は、学んだことを楽しみながら分かりやすく伝えるため、ILC情報をクイズ形式で展示。2年生は、来場者が奥州市の未来を考えるきっかけとなるように、調査したつくば市の航空写真や人口の変化などをまとめて展示しました。さらに、奥州市の未来を考え、交通、職業など4つの分野で自分たちが考えたアイデアも展示し、来場者からもアイデアを募集しました。集まったアイデアを基に、来年度は模型を作製したいと語りました。

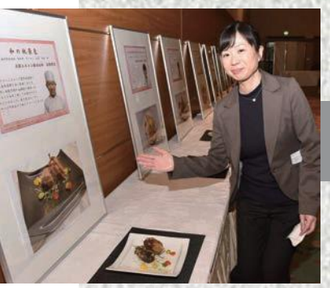
まとめでは「本年度の活動で、ILCが実現した場合の可能性について、イメージを持つことができた」「来年度はさらに多くの人に伝えられるよう工夫を重ね、誘致活動に貢献していきたい」と意気込みを語りました。

ILCの取り組みを発表する水沢工業高校の生徒たち

本コーナーでは、ILC計画について皆さんからの質問にお答えします。電子メール、ファクスでお気軽にご質問ください。
■問い合わせ＝本庁ILC推進室（☎34-2123、FAX22-2533、✉ilc@city.oshu.iwate.jp）

地域おこし協力タイムス

現在市で活動している地域おこし協力隊の隊員が交替でお届けします。最終回となる第13回は「食の黄金文化・奥州輝かせ隊」の髙橋史江さんです。



輝かせ隊の髙橋です。今年は記録的な暖冬となり、農業への影響がかなり心配です。7月からは一部を除き小売店でのレジ袋有料化も始まるということで、私たち一人一人が環境のことを意識しなければと感じています。

2月19、20日に大阪で「アグリフードEXPO大阪2020」という国内農産物の商談会が開催されました。市からは、リンゴチップスのヨンボファクトリーさん、リンゴジュース＆ジュレのおざ正りんご園さんが初出展しましたが、来場者の反応は想像以上！チップスもジュースも無添加で素材そのままの味ということもあってか「リンゴだけでこんなに甘いの？」「品種によって味が全然違う！」と多くの人が驚いていました。「関西ではまだまだなじみの薄い果物なのかも」と今後の販路拡大に期待が持てる催しでした。

2月22日には、第8回食の黄金文化・奥州　料理コンクールが開催され、水沢第一高等学校での最終審査会と、プラザイン水沢での表彰式＆試食会に、スタッフとして参加しました。今年の料理テーマは「奥州市産の牛肉とピーマンを使った『元気が出る』レシピ」。最終選考に残った10人のうち7人が北海道や三重県、兵庫県と遠方から参戦した人たちですが、岩手の食材や郷土料理を調べてメニューに生かしていました。賞を取ることも重要ですが、その土地の食文化や素材を活かすメニューを考えることにも大きな意義があると感じた一日でした。

料理コンクール試食会では、私が制作した、農家さんのインタビュー動画を上映しました

地域おこし協力タイムスは今月号で終了します。今後の隊員の活動はそれぞれのSNSをご覧ください。

①　②　③　④

①輝かせ隊・フェイスブック、②同インスタグラム
③Walk on Soil・フェイスブック
④カヌー普及推進員・フェイスブック

おうしゅう羅針盤 Oshu

日差しのうららかさに、春の到来を感じられるようになりました。いかがお過ごしですか。

2月15日、全日本農はだてのつどいが開催されました。今年は暖冬で雪不足の影響もあり、残念ながらメイン行事である福俵引きが中止となりましたが、庭田植えなどの行事は実施され、皆さんと豊作を願いました。条件の整わない中、ご尽力いただいた関係者の皆さんに感謝いたします。

同日、市教育委員会表彰式に出席しました。学芸・スポーツ活動で優秀な成績を収めた児童生徒が表彰され、ユース五輪アイスホッケー競技で金メダルを獲得した水沢中の福田奈生さんも特別表彰を受賞しました。それぞれの夢や目標に向かって、さらに飛躍してほしいと思います。

2月22日、協働のまちづくりフォーラムを開催しました。協働のまちづくりアカデミーの受講生が、地域課題の解決に向け実践活動に取り組んできた成果を発表しました。受講生には、このアカデミーで学んだことを生かし、今後のまちづくりにお力添えをいただければと思います。

同日、食の黄金文化・奥州料理コンクールが開催されました。市内高校生ら若手の料理人が参加し、牛肉・ピーマンなど市産の食材を使った料理で腕を競いました。試食会では、最終審査に残った10人の趣向を凝らした料理をいただきました。参加者の皆さんには、この経験を糧に、今後も研さんを積んでいただきたいと思います。

先月は、奥州市民☆文士劇、奥州前沢劇場、奥州胆沢劇場が上演され、多くの観客を魅了しました。スタッフ、キャストなど多くの関係者の皆さんが、ワンチームになって取り組んだ結果だと思います。ありがとうございました。

奥州市長　小沢昌記